



社会医療法人近森会

発行 ● 2010年3月25日

びろっば

4

Vol.285

www.chikamori.com 〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者●近森正幸/事務局●川添昇

新人を迎えて

才能を伸ばして 生き甲斐のある楽しい人生を



社会医療法人近森会理事長 近森 正幸

高知県の厳しい医療状況

高齢社会の到来によって現在病院には、臓器不全や機能障害、低栄養や廃用の高齢患者さんが急速に増えています。こうした患者さんは入院が長期化しやすく、しかも医療の質が向上することによって、予約・紹介の入院患者さんが増加して満床状態が続いており、救急患者さんを全面的に受け入れることは難しくなっています。

国の低医療費政策や若い医師の不足により、高知県全体の医療レベルが低下、地域医療は崩壊の危機に立たされています。しかも高齢化が進み病床数の多い高知県は在宅での受け入れも乏しく、十数年後の日本がかかえるであろう深刻な医療の矛盾に、いま直面しているといえます。

急性期病院として生き残るために

このような厳しい状況のなかで急性期病院として生き残っていくためには、マンパワーを増やし、スタッフの質を上げ、やる気をもって仕事ができるように努力し続けることが肝要で、医療は本来人間がするものだという医療本来の考え方を忘れてはなりません。

そのために多数精鋭のチーム医療が求められており、近森病院においても医療安全や感染対策、リハビリテーションや栄養サポートを行い、急性期サポートチームによる手術室や人工呼吸、心臓カテーテル検査のサポートなど、日本でもトップクラスのチーム医療を展開しております。

これからの急性期医療体制のあるべき姿

これまで近森病院は高機能な急性期病院として地域医療連携を進め、平成15年2月には「地域医療支援病院」の認可を受けました。昭和39年の救急病院告示から半世紀にわたり、ERとして救急の質、量ともに高知県でもトップの実績をつくってきました。

また災害支援病院として災害医療派遣チーム(DMAT)を編成、防災活動に積極的に参画しており、昨年9月には「災害拠点病院」に指定されました。こうした実績をふまえ、今年1月1日付で「救急」および「災害」の

分野での医療活動の実績と経営の透明性が認められ、高知県より社会医療法人近森会として認定を受けることができました。「社会医療法人」とは極めて公益性、非営利性の高い医療法人であり、地域において将来基幹病院としての役割を担うことになります。

こうした急性期病院としての体制は、地域医療連携を進め、良質で効率的な医療を確保するためには欠かすことのできないものになっております。

五カ年プロジェクト

いま近森会グループでは、中央診療部門が集中する近森病院本館の全面的な建て替えをはじめ、近森病院の急性期医療のさらなる質的向上のために、五カ年にわたる壮大なプロジェクトがスタートしております。現在第二分院北側の旧ホテル・サンルート高知を解体中で、その後新しい「管理棟(仮称、以下「」内同じ)」が建設されます。次いで本館西側の駐車場跡地に陸橋で「新本館」と結ばれた「外来センター」を建設、旧管理棟と北館跡地に「仮設病棟」を建設後、新館の改築に続いてヘリポートを有した「新本館」の建設が行われる予定となっております。

工事中は患者さんやスタッフにもたいへんご迷惑をおかけすることになりますが、これにより近森病院はほぼ全面的に新しくなり、21世紀のこれからの四半世紀の医療に充分耐えられる急性期病院に生まれ変わるようになります。

生き甲斐のある楽しい人生を

私は理事長に就任して以来、「病院は患者さんを早く治し、住み慣れた自宅に帰っていただく」ことが使命だと、ずっと考えてきました。患者さんにとっていい医療を提供するために最も大事なことは、医師をはじめとした病院スタッフの存在だと信じていました。

新しく近森会に就職された方々には、ぜひこうした近森会という舞台上、自分の才能を伸ばして、生き甲斐のある楽しい人生を送っていただきたいと願っております。

上はオーランドフロリダ大学病院にて左から山崎啓嗣、寺田文彦部長、谷真規子 Dr.、上総文子主任、入江博之部長。左下は大学病院全景。中央はドクターヘリ



左はオーランドフロリダ病院と下はセントラルモニターで全患者分の心電図を専属管理するスタッフ

専門性を極める教育機会

近森病院麻酔科 谷 真規子

4年後の近森病院新本館建設を控えて行われた米国の病院の視察研修で、私は主に手術室と集中治療病棟（ICU：Intensive Care Unit）を見学しました。日本と米国の基本的な医療システムの違いから一概に論じることができない部分もありますが、米国の施設の特徴を紹介いたします。

手術 まず手術室は日本と殆ど差がありませんが、米国で特徴的なのは、前室と術後回復室の存在です。患者さんは手術当日朝に来院し、手術室に隣接する前室にご家族と共に待機します。そこで手術衣に着替えて点滴をし、担当麻酔科医の診察と手術室看護師の訪問の後に同じエリア内の手術室に入ります。術後は手術室に隣接した術後回復室で状態の安定を確認されるまで過ごします。この仕組みは患者さんの搬送距離が短いだけでなく、より周術期管理に習熟したスタッフが手術患者さんの管理に携わることができるという点で優れています。

ICU 次にICUです。プライバシーに配慮し、多くが個室になっていました。また感染対策の観点などから各個室に日常的な必要物品が揃えられていました。フロリダ病院で非常に興味深いお話を伺いました。ICUの個室（全室窓に面しています）の窓側から3分の1がご家族、真ん中3分の1が患者さん本人、入口側3分の1が医療従事者のためのエリアだということです。それぞれのエリアがそれぞれの該当者に心地よいように工夫されています。医療従事者が患者さんや御家族の心地よさを意識的に考える視点が素晴らしいと感じました。

最後に、様々な専門を持つ多くの職員がそれぞれの病院でも生き生きと勤務していました。誰もが抱える家庭の事情へのサポートが得られ、自分の専門を極めるための教育機会が与えられ、そうして得た専門性を生かす場所があることがその背景であるように感じました。今回の新本館建設が建物の新築にとどまらず、スタッフひとりひとりが自身の専門に誇りを持ちモチベーションを高く持って活躍し続けることを目標とする当院の更なる進歩の契機となることを期待します。

米国の医療情勢

診療支援部部長 寺田 文彦

ウィスコンシン州大学病院 昨年よりスタートした新本館建設5カ年事業における病院レイアウトや運用を確認するため、1月16日から25日にかけて米国2病院を視察しました。最初はウィスコンシン州大学病院（503床、内ICU74床）で、病院内でクリニックと入院施設の入り口が分かれ、入院、病院外来、クリニックの機能を完全に分け、入院前後の検査や処置をできるだけ外来で行う仕組みになっていました。

ICU ICUでは医師の業務が看護師に委譲されており、見学の外科ICU内でも重症度に応じた部屋の使い分けが行われていました。各個室ごとに救急カートの中身が常設され、薬剤師はICU内で調剤にあたり、管理栄養士やリハスタッフはケースマネージャーとMSW共にLTAC（長期入院施設）やリハビリテーション病院への転院を入院時から行っており、部屋をできるだけ有効利用すべく各フロアの予備室をうまく利用していました。

ER ERは29床の全室個室対応で一般撮影、CT室が同エリアに設置され、平均滞在時間が12時間、受診の3分の1が入院対象となりICUや手術室に運ばれています。治療の進捗はカラー分けされており、ERヘッドナースがトリアージをしていました。

手術室 手術室は入院患者用に22室が設置され、別途日帰り手術用15室を有し、ほぼフル稼働している状態でした。かなりの治療材料が手術室内に置かれ（高額材料は鍵管理）、職員カードや患者IDを利用して物流管理を行っていました。

建設の反省点としては、①ERから手術室、ICUまでの距離が長い②ICUが満床状態で空床確保に苦心している③建物全体の間取りが複雑で新規赴任の職員や患者さんがよく迷う。が挙げられていました。

オーランドフロリダ病院 2件目のオーランドフロリダ病院は300万人医療圏を二つのマグネットホスピタルで支えており、大きな湖の畔に新築移設して動線の見直しを行っていました。救急医療を中心に癌治療を加え、平均在院日数5日、手術室48室（内日帰り手術用30%）。民間病院らしく診療現場を優先し、スタッフサポートとしてミーティングルームや予備室などを充実させ、精一杯診療にあたってもらうコンセプトで設計されておりました。

見学の循環器科、心臓血管外科チームの病棟は、セントラルモニターで全患者分の心電図を専属管理するスタッフを持ち、外来はすべてER機能とし、患者と職員の動線を分け、トリアージ看護師が診察、処方権を持ち、医師の負担を減らしていました。

今回の視察で感じたことは、各専門職種が病院事業に詳しく、こちらと同じ数の質問をされるほど日本の病院事情にも興味を持っていることでした。米国は皆保険制度に近い方法で無保険者を減らし（保険料が増加するため職員給与は下がる可能性あり）、日本はDPC/PPS（1日定額支払い制度）でより在院日数を短縮する運用でマグネットホスピタルを創り出そうとしています。今回の視察で米国医療情勢も少し理解が出来ました。4年後の病院完成時には先方の職員の方々に良い報告ができればと思っております。

2月19、20日の両日、浅尾高行先生を迎えて第63回地域医療講演会報告と第24回四国内視鏡外科研究会が行われました。



左より赤松順部長、山本彰部長、円山英昭部長、浅尾高行先生、北村龍彦副院長、八木健部長

講師の浅尾高行先生



ました。

応募演題数は、これまでの最高の35題となり、当初予定していた開催時刻を繰り上げ、発表時間も短くして、どうか時間内に入るプログラムになりました。呼吸器、食道、胃、胆嚢、大腸など外科分野に、泌尿器科、婦人科からの演題も加わり、内容も充実しておりました。特に昨年本邦に導入された単孔式内視鏡外科手術も数演題あり、活発な議論がなされ、有意義な会になりました。

特別講演は群馬大学大学院病態総合外科准教授の浅尾高行先生にお願いしました。先生は単孔式内視鏡手術で必須の手術器具となっているミニループ・リトラクターをはじめ多くの器具を開発された方として有名で、今回は「次世代の鏡視下手術に必要な器具と実用的手術手技」と題して先鋭的な内容を含めてご講演いただきました。浅尾先生が開発し、今後国内外の学会にその評価を問うとしている新たな体内結紮法を提示していただきました。

スタッフを含め100名余と、これまでになく盛況な研究会でした。当院からも座長、演者、スタッフとして参加していただき感謝しますとともに、今後も低侵襲の内視鏡外科手術を進める努力を致しますのでよろしくお願い致します。

座長／谷村正信部長

演者／八木健部長



当番世話人／山本彰（筆者）

演者／笠原桂子先生



第63回地域医療講演会報告

「腹腔鏡を使った手術の実際」

近森病院副院長 北村 龍彦

平成22年2月19日金曜日第63回地域医療講演会が「腹腔鏡を使った手術の実際」をテーマに開催されました。講師の浅尾先生は、群馬大学病態総合外科学（第一外科学）の准教授で、翌日開催される四国内視鏡外科研究会の特別講師として招かれ、近森病院スタッフを中心に、内視鏡を利用した各種手術手技に関して、医師・コメディカルスタッフにも分かりやすい講演をして下さいました。

先生は、筆者や外科の八木部長、坪井科長と同門であり、共に手術や研究、教育を共にした時期がありました。彼の臨床における基本的な姿勢は、患者さんのために、いかに安全で満足の得られる医療を提供するかであります。外科医として、手術侵襲および術後の疼痛の軽減、そして手術創を目立たないようにするためにはどうしたら良いかを常に考え、現在まで歩んでこられました。今日までの歴史を振り返った講演は、聴講者にとって、鏡視下手術を身近に感じさせてくれる内容でした。一例を紹介しますと、先生が腹腔



鏡手術用に独自に考案されたミニループ・リトラクターや穿刺型電気メスなどの手術器具は、日本中の外科医に幅広く臨床応用されています。また、甲状腺の手術を脇の下からのルートを利用したり、腹腔内の手術も臍を利用した一つの孔から行い、傷跡が分からなくするアイデアなど、手術術式や手術器具の開発の発想の豊かさに驚かされた講演でした。

常に「患者さんのために」を目指して医療を展開することの重要性を再認識させていただいた講演内容でした。

第24回四国内視鏡外科研究会

「次世代の鏡視下手術に必要な器具と実用的手術手技」

近森病院呼吸器外科部長 山本 彰



2月20日に第24回四国内視鏡外科研究会を、当番世話人として高知市文化プラザかるぽーとにて開催させていただきました。国内市況外科研究会は1993年7月から始まった香川内視鏡懇話会を母体にして、1996年より四国4県に発展し、今回で24回を迎えました。1990年に現在のような腹腔鏡下胆摘出術が日本で初めて行われて、今年ちょうど20年目の開催となり

4月の歳時記

薔薇（ばら）科で学名 Chaenomeles sinensis。ギリシャ語で「裂けたリンゴ」の意味だそうです。

千年以上前に日本に渡来しました。実は香りよく、のどの薬としてあまりにも有名ですね。「カリンポリフェノール」という成分を含んでおり、のどの炎症をしずめて風邪や

かりん花梨

近森リハビリテーション病院 言語療法科科长 矢野 和美

ぜんそくのをせき止め、たんを取るという効用があります。中国ではそのいろんな効用から「杏一益、梨二益、カリン百益」と呼んでいます。



総務課広報担当 鍵本由紀

特集 ● 世界を駆け巡る職員旅行

エジプト、フィンランド、イギリス、オーストラリア、パラオ、マカオ、カンボジアなど、職員の海外旅行を満喫しました。



マカオの聖ポール
天主堂跡で



シドニーで記念写真



フィンランドのサンタクロースと
フィンランドでオーロラを見る



パラオの海で



カンボジア



ロンドンで
至上の笑顔



ロンドンでホームズのつもり？



エジプトで

● お知らせ ●

● 第 65 回地域医療講演会
「生活習慣病としての非アルコール性脂肪性肝炎 (NASH)」
平成 22 年 4 月 16 日 (金) 18:30 ~
ホテル日航高知旭ロイヤル
ゴールドンパシフィック東
講師 高知大学医学部消化器内科学
教授 西原利治先生

● 第 66 回地域医療講演会
「バリエーション分析勉強会 (仮)」
平成 22 年 4 月 22 日 (木) 18:00 ~
近森オルソリハビリテーション病院
8 階会議室
講師 福井総合病院 クリニカルパス委
員長 勝尾信一先生
(副院長 / 整形外科部長)

● 第 67 回地域医療講演会
「嚥下障害のリハビリテーション
~ TOPICS を含めて ~」
平成 22 年 4 月 30 日 (金) 18:00 ~
管理棟 5 階会議室
講師 川崎医科大学 リハビリテー
ション科教授 椿原彰夫先生

新シリーズ よき友くすし 2

~ 目薬一滴、使い方ひとつで効果アップ! ~

近森病院薬剤部 野本 真紀

薬剤部で春が来たなあ…と感じるのが、この時期にぐっと増える目薬に関するお問合せ。そこで、今月は目薬のお薬立ち情報をお届けしたいと思います。

- ・何滴もさしたら効果が上がる??
目の中にためられる量は 1 滴分程度なので、さす量は片目に 1 滴で十分。それ以上さしても目からあふれて皮膚がかぶれたり、鼻や咽から全身へと流れて副作用を引き起こす可能性も!
- ・さした後はどうしたらいい??

目をぱちぱち瞬きすると、薬が浸透する前に目頭にある涙点から鼻や咽へ流れて行き効果が下がります。成分が浸透するようにしばらく目を閉じましょう。その時目頭をそっと押さえると、涙点から流れ出すのを防げるのでより効果的です。



- ・二種類の目薬をさす時は??
続けてさすと後からさした目薬が最初の目薬を洗い流してしまうので、間を 5 分以上あけて。順番は特に医師の指示がなければ、よく効かせたい方を後にするとよいでしょう。花粉症のシーズン、効果的に目薬を使って少しでも快適に乗り切りましょう♪

高知ハビリテリングセンターのグループホームができました



南東から眺めた建物と前庭の植え込み

採光や通風部分の説明に聞き入る

自然採光が工夫され生活者の視点が随所に活かされている

窓が広くて明るい

ベランダやテラスから植え込みや芝生を楽しめる

看護部 **キラリと光る看護 part2**

当たり前前のことを当たり前前 ～観て触れて感じて～

近森オルソリハビリテーション病院
副院長兼看護部長 尾崎 貴美



膝をしばらくさすってくれた

回復期病棟では毎朝ラジオ体操を行っています。その時の患者さんの表情や顔色、体の動かし方などでその日の心身のコンディションが観察できる絶好のチャンスです。

ある日とても晴れやかな表情でラジオ体操をしている患者さんの姿が目にとまり、話しかけると、右膝に手を当て、「夕べは普段よりちょっと痛かったけど治った……。あの人がきて話を聞いてくれて膝をしばらくさすってくれた。それで治った……。嬉しかった」と明るい表情で、指差す先には夜勤明けのスタッフの姿がありました。

観て触れて感じて

彼に「〇〇さんに何かした？」と聞くと、きょとんとした顔で、「訪室すると、膝が少し痛むと訴えるので、観てみたが熱感もなかったのです。薬も飲んでもらいました」と答えました。

その日は可動域を広げた訓練で少し痛みがあるかもしれないとのリハビリテーションの状態も把握した上でのことです。もちろん薬の効果もあったに違いありません。しかし、それよりも何気ない臨床でのケアのなかで、看護の基本、「観て触れて感じて」そして

細やかな心遣いが自然に出来ています。そこに患者さんの満足感がある、

思わず胸が熱くなりました。

看護の醍醐味

回復期病棟は高齢者が多いのも特徴です。その特性を理解しつつ、その時々状態に対応して患者さんに満足感を持ってもらい、日常生活に繋げていきます。当たり前前のことを当たり前前に行い、当たり前前に感動の一つ一つを大切にしながら、患者さんもスタッフも満足感に繋がること、そこに看護の醍醐味を感じます。そのような看護が毎日行えている、これからもそういう病院でありたいと思います。

リレーエッセイ

ちかもりっ子

援護寮まち

ソーシャルワーカー

檜垣 千穂



この写真は私が3歳のころ、近森病院一般自治会主催の「秋の行楽」で「りんご狩り」に行ったときの一枚です。写真をよくよくみると、私の上司である野村部長のお姿もあります。その他にも、近森病院在職歴の長い方が見れば、思わず「懐かしい～」とおっしゃる顔があるかと思います。

私の母が、当時近森病院医事課に勤務しており、小さいころの私は同伴者としてよく病院のイベントに参加していたようです（全く覚えていませんが……）。そのため、小さい頃の写真のなかに、保育室で撮ってもらった写真や、忘年会に参加したときの写真があつたりします。

よく母から「近森病院の職員さんに可愛がってもらえた」と聞かされ

ました。母が気づけば、職場の誰かが私のお守りをしてくれていたそうです。何を隠そう私は「ちかもりっ子」として育ってきた訳です。ちかもりっ子として育ち、再びソーシャルワーカーとなって近森病院に戻ってきたとでもいいでしょうか（笑）。

りんごを頬張っていたころの私は、まさか自分が近森病院に就職しようとは思っても及ばずでしょうね。私の成長とともに、それだけ病院の歴史も長いということをつくづく感じる今日この頃です。



檜垣さん
(3歳)

聴診器と私

看護師として初めて聴診器を手に人に接したのは、今から十数年前です。学生から社会人、しかも人の命を預かる大変な職業に就き、聴診器はその大切な命の声を聴く道具。その聴診器を肩に掛け、観察がきちんと出来るのかという不安と頑張るぞという気持ちでドキドキしながら患者さんの元へ行った記憶があります。先輩や医師に教えてもらいながら、音の正常・異常を学びながらここまでこれたように思います。

声を自分の耳で

新館6階西病棟看護師長 永野 智恵

我が家にも聴診器が常備されています。長男が喘息で幼い頃よく発作を起していたからです。まだ幼く、言葉で息苦しさやしんどさを話せなかったので、聴診器で聴く音を頼りに吸入をしたり夜中に病院に駆け込んだりと、公私共に聴診器は私にとってなくてはならないものでした。今は、長男も元気にたくましく育ち聴診器の出る幕はなくなって、

我が家の聴診器は棚の片隅で眠っています。

仕事でも今の職務に就いてから、以前よりは聴診器で音を聞く機会が減りました。代わりに今は自分の耳で患者さんやご家族の声を少しでも多く聴いていけるように頑張っています。





占い師

臨床工学部技士長 深田 和生

臨床工学技士とは病院の機械屋さんです。ですから機器の操作は勿論のこと、メンテナンスまでやってしまうのです。でも最近は臨床業務がメインになってしまい、機械屋さんのイメージが薄れてきたような気がします。

そもそもメンテナンスの基本は整備、点検、修理です。これは事故の予防、防止、対処をしているので、メン

テナンスを行う者は無意識のうちに安全の概念が身に付き、事故を未然に防ごうとする意識が高まります。つまり危険予知の能力が養われる訳です。この予知とは決して特殊な能力ではなく、過去のデータなどから未来を予測することなので、結構な確率で的中させることができます。しかし洞察力と発想力が結びついてはじめて可能となるので、日頃の努力を惜しまないことが重要です。

人間、四六時中アンテナを立てて危険が予測できたとしても、自分の未来はなかなか予測できないものです。もしかしたらデータの取り方次第では、ある程度予測できるかもしれません。そしたら腕のいい占い師になれる。安全もそんな所から始まるのではないのでしょうか。

図書室便り (2010年2月受入分)

- ・ ROCKWOOD AND WILKIN'S FRACTURES IN CHILDREN SEVENTH EDITION / JAMES H.BEATY (他著)
- ・ ROCKWOOD AND WILKIN'S FRACTURES IN ADULT SEVENTH EDITION Vol.1,2 / ROBERT W.BUCHOLZ (他著)

- ・ OS NOW Instruction 整形外科手術の新標準 13 股関節の骨切り術 関節温存手術のポイントとコツ

- 岩本幸英 (他編集) 機構 (監修)
- ・ IDATEN のプロが答える そこが知りたかった感染症 / IDATEN (日本感染症教育研究会) 編集

- ・ 抗菌薬について 内心疑問に思っていること Q & A / 大曲貴夫 (編集)
- ・ 胸部画像診断 - 感染症を読む / 山口恵三 (監修)

- ・ みんなの栄養管理講座 Part.1,2 / 井上善文

- ・ 第40回日本看護学会論文集 看護教育・精神看護 / (社) 日本看護協会看護教育研究センター (編集)

《寄贈本》

- ・ 2008年度 日本体育協会スポーツ科学研究報告集 / 日本体育協会、スポーツ科学委員会 (編集)

《別冊・増刊号》

- ・ 医薬ジャーナル 46 巻増刊号 新薬展望 2010 / 政田幹夫 (他編集)

- ・ 別冊 医学のあゆみ 抗凝固・抗血小板療法 Update / 後藤信哉 (編集)

- ・ 別冊 NHK きょうの健康 女性の尿トラブル: 気になる症状を改善する / 加藤久美子 (総監修)

看護部で 二つの会合を開きました

3月6日(土)に2009年度
業務改善下半期報告会



2月27日(土)に、
2009年度3日目看護師ケース発表会



近森会管理部長 川添 昇

春爛漫、桜の花を愛でながら薄手の杯に花びらが散り浮かぶ。酒の肴は桜鯛の湯引きか……。うーむ、なんだかラズヴェル細木の漫画「酒のほそ道」を安っぽく連想してしまう。



それにしてもこれからは美味しい食べ物が続々旬を迎える。魚や貝や春野菜、高知に住んでいることの幸福を感じる季節でもある。

出張から帰ってくる飛行機の窓から見た、一面に水の張った香長平野の田んぼは、みづほの国そのものだし、先年帰農した仕事仲間のことが思い出される。

今回も、またまた超簡単レシピをご紹介します。

キーウィフルーツと蛸



① 蛸の足1本を一口大のブツ切りに。
② キーウィフルーツ2個を皮をむき、1個は手でつぶし、もう1個は1~2cmの角切りにして、①にまぜ合わせる。

好みで塩、オリーブオイル、バルサミコを加えて、30分位冷やしてガラスの器にとり分ける。

あっさりしすぎなら更にアボガドを加えてもいいかも知れない。

〈食べる〉

冷えたビール、スパークリングワイン、ハイボール、淡麗辛口の土佐の酒、などが合い口だと思う。もちろんいちどに全部試してはダメですぞ。

春の宵口にぴったりの酒肴だと思う。

「春宵一刻直千金、花有清香月有陰」

蘇軾 春夜詩

乞！ 熱烈応援



乳癌術後の 患者さんを診療

近森病院外科部長 田中 洋輔

3月1日付けで入職致しました。新外来棟に設置される外来通院点滴治療部門（外来化学療法など）を担当させていただきます。

当面は関係する先生方、薬剤師さん、看護師さんと相談して新部門の準備をしながら、現在外来で抗癌剤治療中の患者さんについては各科の先生を援助する形で、また仕事が少ない間は外科と他の先生方の仕事をお手伝いさせて頂きますので、何なりとお申し付け下さい。化学療法や腫瘍薬物療法の勉強会、症例検討会も開催させていただきたいと考えております。

私は、始めの21年間は消化器一般外科の、後半の11年間は乳腺甲状腺外科の臨床に携わり（大学病院の手術部運営・手術部教育も担当しました）、また肺癌は高知大学第2外科に所属していたため少しかじりました。（直近の1年弱は診療所で内科と整形外科を経験しました）

なお当院外来では、乳癌術後患者さんを診療いたします。自己紹介で誌面が尽きました。新しい患者さんを開拓し、近森病院の発展に寄与できるよう頑張りますので何とぞよろしくお願い申し上げます。

日常の臨床を きちんとこなし

心臓血管外科部長
池淵 正彦

2月1日に心臓血管外科部長を拝命しました。正直、自分でも驚いており、まだ自分には部長という呼び名はしっくりきません。もっとも実働的な立場としての手術や病棟の仕事、特に重症患者さんの管理や急患対応における自分の役割は自覚していますが、我々の心臓血管外科には超強力なリーダーである入江部長がおられます。したがって、自分のすべきことは、地道に足元を固めること。入江先生が高い視点、広い視野で、自由に、不安なく強力なリーダーシップを発揮できるように、困難な手術も含めた日常の臨床をきち

んとこなし、後進の面倒を見、スタッフがストレスなくついて来られるように、後ろをしっかり支えていくことだと思います。それらを高いレベルでこなしていくことこそが私の努めだと思います。

ストレスのもととなりがちな急患対応などでもみんながスムーズに力を発揮できるように、楽しく仕事をしたいと思います。みなさんにはあまり部長になったと意識されずに、垣根を低く、みんなに近い目線で頑張っていきたいと思います。



私の趣味

英会話に夢中です

一番右側が筆者

画像診断部 中川 以都香

私が英会話を習おうと思ったのは、イギリスに旅行したのがきっかけでした。

留学していた友人にヒースロー空港まで迎えに来てもらう約束だったので、英会話ができなくても大丈夫だろうとすっかり安心しきっていたのですが、友人と合流する手前の入国審査でまさかの立ち往生。見た目も怖い審査官に15分ほど質問攻めにされ、ただただ必死に片言の英語と身振り手振りで説明しました。

その後すっかり怖気づいた私は、旅先の人たちとコミュニケーションをとることもできず、買い物をするだけでもびくびくしてしまいあまり旅行を楽しめませんでした。

このままじゃいけない！と思い、



近森の英会話教室に通い始めて約3年、あまりにも上達しない自分にながかりしたり、仕事でレッスンに参加できないこともあります。地道にコツコツと続けています。

近森英会話教室の最大の武器は、講師の先生が優しくていい人ばかりだということです。また、今までアメリカ、オーストラリア、カナダと出身国の違う先生に習うことができ、それぞれの文化や考え方の違いを体感することができました。

海外旅行が好きな方、自分のプチ国際化を図りたい方は気軽に参加してみたいかがですか？



私の日中活動

社会福祉法人ファミーユ高知
障害者サービスセンターウエーブ
大西由里



社会福祉
法人ファミーユ高知
所属の大西由里です。
主な担当は

日中一時支援事業、いわゆるデイサービスで、利用者みなさんと日々関わっています。お菓子作りや昼食作り、折紙教室、押し花教室など季節に応じて提供させていただいています。

利用者みなさんに「楽しかった！」と思ってもらえることが一番うれしいです。

2010年 2月の 診療数	近森会グループ		企画 情報 室
	外来患者数	15,841人	
	新入院患者数	718人	
	退院患者数	703人	
	近森病院		
	平均在院日数	16.13日	
	地域医療支援病院紹介率	84.48%	
	救急車搬入件数	323件	
	うち入院件数	167件	
	手術件数	381件	
うち手術室実施	273件		
→うち全身麻酔件数	158件		

編集室通信

1月→『行く』、2月→『逃げる』、3月→『去る』といいますが、こんなの誰なののでしょうか？今年も早3ヶ月が経ち、あっという間に入社、入学シーズンを迎えました。毎年目にする真新しいスーツ姿の社会人や制服姿の学生を見かけると、ついついこちらまでワクワクします。4月には、『知り合う』の言葉を充てたいですね。(山崎)